

『チョコとチョコレート』

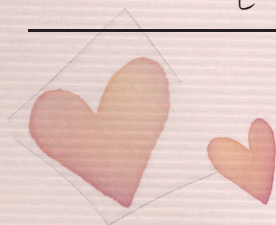
バレンタインはそもそも古くから日本にあったイベントではなく、昭和の時代にぽっと現れたのです。

筆者が中一の時、デパートでかわいいハート型の赤いサテンのケースに入れて売られているチョコレートを見て『誰にあげんのやろ…』と母に尋ねたのが今思えば、バレンタインの幕開けだったのでしょうか。

それから五十年。すっかり私たちの生活の中に「ひな祭り」「五月の節句」「バレンタイン」。(今やハロウィンに押され気味ですが…)

チョコレート板紙の風合いと色を生かし、カカオを型どったエンボス加工のみのシンプルで少し大人のバレンタイン箱を作りました。

蓋を開けると「チョコレートのある風景」が描かれた名画を用いた小袋が6つ入っています。ここには、元々チョコレートは飲むものだったとわかる油絵もあり、またそのカップがなんと柿右衛門のものであることを発見し、なんとも嬉しい気持ちになります。



チョコレート



おもて うら

— 230g/㎡, 310g/㎡, 350g/㎡, 400g/㎡, 450g/㎡, 650g/㎡

— 古紙配合率 100%

— 表面に長繊維古紙、
中・裏面は一般古紙を使用。
表は深みのあるダークブラウン、
裏面はオフホワイトのコンビネーションに。
リバーシブルでの使用も◎
書籍、パッケージ、文具、紙製品、一般印刷紙器などいろんな用途に。



柿右衛門写しの
マイセンカップが描かれた
チョコレートの個包装。

